

# 令和元年度 第1回学校運営協議会記録

日 時：令和元年6月12日（水） 10：00～12：00

場 所：校長室

- 開 会 本協議会の成立確認 配付資料確認
- 学校長あいさつ
- 協議会委員紹介
  - ・藤井 茂樹 大阪体育大学 教育学部教授
  - ・松尾 達子 泉大津公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官
  - ・阪下 誠 和泉市教育委員会事務局 学校教育部 指導室 人権教育担当課長
  - ・南 三郎 和泉市池上町校区会長 連合会長
  - ・石田 絹子 大阪府立和泉支援学校 元PTA副会長
  - ・尾崎 孝子 大阪府立和泉支援学校 PTA会長
- 事務局員紹介 校長、教頭、事務長、首席、各部主事
- 会長選出 藤井委員を選出
- 会長挨拶
- 協 議
  - 【1】 学校見学 各部主事による案内
  - 【2】 学校運営協議会実施要項
    - 大阪府は現在の学校運営協議会に近い形で運用してきましたが、今回の改正で大きく変わったのは、「職員の採用その他の任用について意見できる。」という第3条の部分です。その他については、今までと同じように地域の方、学識経験者の方より意見をいただき学校をより良くするということが大きな趣旨となります。
    - 住民の参画の促進等のための情報提供について、第5条にありますように「積極的に情報提供する。」と在りますが学校運営協議会は結果の情報をどのように今まで地域へ情報提供してきたでしょうか。
    - 特に地域とは限らずに、公式、広域に情報発信するという事で学校ホームページに議事録を掲載させていただいています。
    - 地域の方は、学校のホームページに議事録が掲載されていることを知っているのでしょうか。知らないのではと思います。何らかの手立てを検討していただきたい。
    - 学校ホームページを見ていただくと学校運営協議会の内容がわかる。こういった形で周知するかということだと考える。和泉市から学校運営協議会に出席していただいていますので、市の毎月の広報誌に支援学校の学校運営協議会が開かれたこと等を周知していただけないか。
    - 担当の部署ではないので、持ち帰って相談させていただきたい。どこの学校も学校ホームページで議事録等を公開していると思う。始まったばかりの制度なので、どのように周知していけばいいか今後の課題である。

- 和泉市の中に区長会がありますので、和泉市の方から府教委と連携し、「学校運営協議会があります。」と各区長さん周知するだけで伝達ができると思いますがいかがですか。
- 他の支援学校では、どのようにしていますか。ホームページ以外に周知の方法はありますか。しかし、まだ、制度が始まったばかりと認識しましたので今後の課題と感じました。
- 和泉市に広報の方法があるならば学校からもお願いにあがりますのでよろしく申し上げます。

**【3】学校経営計画について 校長より報告**  
 〈質問・意見等〉

- めざす学校像は、本校が大事にしていく目標です。学校の成り立ちの精神と考えていただきたい。中期的目標は3年から5年までの計画となります。4本柱で掲げています。4本柱の重要度の順位はございません。並列して重要と考え達成していくとしております。今年度の重点目標は1年スパンとなります。4本柱の各カテゴリーに分類されています。1つめは、センター的機能について、本校は地域の小、中学校との交流及び共同学習などインクルーシブ教育ということでもかなり進んでいます。小学校入学支援カードについては入学前に子どもの実態を伝える手段として一層の促進をしている。2つめとして、アセスメントに力を注ぐ。特に中学部全学年にS・M社会生活検査を行う。資料は高等部に引き継いでいく。子どもに応じた視覚支援を進め、基礎的環境整備をしていく。授業力の向上については、公開授業、教材フォルダの共有、ICT機器の利用の促進をしていく。3つめについては、卒業後の自立について具現化していくということになります。進路について保護者への啓発、情報提供、本人への自己認識、自己選択を重要視したい。4つめの、安全安心な学校づくりの推進は全ての教育の基本となると認識しております。PTAも防犯防災については先進的に非常に力を入れて取り組んでいただいている。危機管理意識についても練習あるのみ、身に付くまで繰り返していく。健康教育については、食物アレルギーについて事故0をめざしている。人権教育については、いじめ、体罰についてあってはならないことだが、それらを防ぐためにワークショップ形式で研修を行う。校長自ら組織を挙げて率先的に行う。
- 和泉市のお力添えのおかげとありましたが、全く逆で市のほうがお力添えをいただいている。支援コーディネーターの実習や研修に和泉支援学校の先生方にご協力していただき、3回の予定が5回も行っていただいた。小学校入学支援カードについては、市の福祉部局と同じような書式があって、調整が必要であった。今後、調整していきたい。
- 同じような書式であっても福祉部局と教育委員会部局と一緒にやるということで使いやすくなる。
- 受け入れる学校が追いついていない現状と思う
- 良いものは共有していけばいい。
- 地域では安全安心については夜警をしている。町内の見守りを4～5名のグループで行っている。大きな事件は無いが、冬場に残り火を発見して事なきを得たことがある。学校と地域と、内と外で安全安心についてやっていけないといけない。学校に隣接している公園についても、地域で除草作業をしている。防災についても地域と共にやっていく方向が良いのでは。
- 防犯について、地域でも取り組んでいただきありがとうございます。避難については、本校は、専門的な施設として福祉避難所の協定を結んでいる。しかしながら、地域の方を拒むことはないはずと考えている。
- 阪神淡路大震災の時も神戸市内の支援学校は避難所として使用していた。実際に被災となったら緊急のことですから対応されることと思います。
- 回答できる立場ではないが、地域からご意見があるということを受け止めて、市と協議して頂

くということをお願いします。

【4】授業参観アンケートについて 校長より報告

- アンケートをとって授業の改善をしていくということです。質問事項の文言が難しいが、保護者の方が自分のお子さんの授業を見て書いていただきます。
- これは何年ぐらい行っていますか。
- 教員の評価育成システムが始まって以来、行っている。教員の授業力向上に役立っている。
- 卒業生ですが保護者として子どもを通わせていて、一度も書いて提出したことがない。
- できれば日ごろから先生とコミュニケーションを取ってもらって関係をとっていただければと思います。
- 無記名にすると、アンケートの信頼性が無くなる。何が一番いいのか考えている。
- 大学でも同様の問題がある。大学でも記名式にしていた。趣旨をご理解いただきたい。お子さんにとって良い授業ができ、最終的には高等部から生きて働く力をつけることが目的となる。ご意見を出していただくのは大事である。

【5】使用教科書について 教頭より報告

〈質問・意見等〉

- 今年度、各学部で教科書選定委員会において選定された教科書を用意していますのでご覧ください。
- 支援学校の教科書というのは、文部科学省の検定本を使っただけのお子さんと検定本ではない形の本を使うお子さんがいる。お子さんの実態に応じた本を使える形になっている。子どもたちに合う形の教科書を使っていることがお分かりいただけるかと思います。

○会長まとめ

- インクルーシブという障がいのある人と無い人が共に生きるということですが、地域のラジオ体操において、どれくらい支援学校の児童、生徒が参加しているかということが本来のインクルーシブになるのではないかと、地域の中でラジオ体操の場面で出会うことが重要ではないかと思っている。学校は、いろいろなところでインクルーシブを行っている。是非、地域の中で、障がいの重い方たちが普通に過ごせるようになって欲しい。

○学校長お礼

○次回連絡 令和元年11月13日(水) 10:00~12:00